

## ASEANに本格参入する中国自動車メーカー

### ◆中国自動車メーカーのASEANでの本格的な現地生産が始まる

中国の上海汽車とタイの財閥CPグループとの合弁企業の上汽正大汽車は、2017年12月8日、タイで乗用車生産の新工場の開所式を開催した。上汽正大汽車は14年に年産1万台規模の暫定工場をタイで稼働したが、新工場は年産10万台と生産能力を10倍に拡大している。上海汽車ブランドの乗用車を生産し、タイ国内での販売だけでなく、ASEAN各国への輸出も視野に入れている。

また上海汽車は、17年8月、インドネシアでGMおよび中国の柳州五菱と合弁で乗用車工場の稼働を開始した。柳州五菱ブランドの乗用車を生産し、22年までにインドネシアでのシェア10%獲得を目指している。

マレーシアでは、17年5月、吉利汽車がマレーシアの自動車メーカーであるプロトンに資本参加すると発表した。18年末までにプロトンの工場で吉利汽車ブランドのSUVを生産する計画となっている。

タイの乗用車の輸入関税率は80%、インドネシアは50%、マレーシアは30%と高いが、ASEAN内での貿易に関しては関税が撤廃されている。このため、ASEAN内で生産された自動車は、ASEAN市場では価格競争上、有利となる。

### ◆海外進出にも力を入れ始めた中国自動車メーカー

中国の自動車メーカーは、世界最大である中国の国内市場を重視し、これまでは海外での存在感は小さかった。しかし、17年4月に中国政府が「自動車産業の中長期発展計画」を発表し、「20年までに中国ブランド車を自動車先進国へ輸出し、25年までに中国ブランド車の世界的知名度を向上させる」との目標を発表したこともあり、今後は海外進出にも力を入れていくものと想定される。

日系自動車メーカーはASEANで大きなシェアを持っており、タイとインドネシアではシェアが90%以上、マレーシアでも40%以上となっている。高いブランド力と大きな販売網を持つ日系の自動車メーカーのシェアが、中国の自動車メーカーに急速に脅かされることは考えにくいだが、新興国市場で存在感を高めつつある中国の自動車メーカーの動きから目が離せない。

【今村弘史】